

## せんだい GREEN アクションアワード表彰事業者「ヨークベニマル若林店」



ヨークベニマル 常務執行役員 開発室長の橋本修一さん（左）、開発室総括マネジャーの橋本真一さん

株式会社ヨークベニマル「ヨークベニマル若林店」では、店舗における使用電力量を用途別に「見える化」し、運転時間や温度設定を細かく見直すという効果的かつ先駆的な取り組みが高く評価された。

株式会社ヨークベニマルは、セブン&アイ・ホールディングスのグループ会社のひとつ。セブン&アイ・ホールディングスの掲げる「2030年までにCO2排出量を2013年度比で50%削減」「2050年までにカーボンニュートラルを実現」という目標を達成するべく様々な取り組みを行っている。

現在は目先の目標である2030年までのCO2排出量50%削減に注力しているとのことだが、開発室総括マネジャーである橋本真一さんは、「50%削減って、言うほど簡単なことじゃないんです」と言う。新規の店舗を増やしていきながら全体のCO2の排出量を削減するため、「既存店だけで言えば70%以上削減しなければ、トータルで50%の削減目標に届かない」。

この高い目標をクリアするため、サステナビリティ推進プロジェクトを立ち上げてCO2排出量の削減に取り組んでいる。橋本さんもサステナビリティ推進プロジェクトメンバー および、セブン&アイ・ホールディングス環境部会イノベーションチーム CO2排出量削減チームサブリーダーを兼務している。



積極的に使用電力の削減に取り組むヨークベニマル若林店

さらにヨークベニマルでは、全店舗にBEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）を導入。何にどのくらいエネルギーを使用しているかを「見える化」するだけでなく、全店の消費電力量をランキング化した。

今ある無駄を効率的に削減するべく、普段のこまめな節約を従業員全員で徹底できるよう本部でもこまめにフォローしている。「無駄はチャンスと捉え、本部や店長だけではなく店員も含めて、全員で無駄を見つけてなくすことを大事にしている」と語る橋本さん。今後も2030年、2050年の目標達成に向けて着実な努力を重ねていく。